

ウェルビーイング

Well-Being

ウェルビーイングシティ構想



これからの時代のキーワードは、
きっと「ウェルビーイング」だと思う。

ウェルビーイング住宅

CANVAS

キャンバス

それは絵画で用いるキャンバスのように、
住まう方の想いを叶え、
ライフスタイルを自在に塗り替えられる
マンションブランド。
一人ひとりの暮らしを尊重し、
ウェルビーイングな毎日を提供します。

「ウェルビーイングシティ構想」動画コンテンツ公開中！

ウェルビーイングシティ構想

検索

〈売主・設計・施工〉

ファーストコーポレーション株式会社

〈売主〉

POLUS 株式会社中央住宅

〈売主〉

中央日本土地建物

〈販売提携（代理）・管理運営〉 〈販売提携（代理）〉

First Evolution

JR東日本伊藤忠ハウジング



VISION BOOK

※掲載のイラストはイメージ化したもので、実際とは異なります。※掲載の情報は2021年9月10日現在のものです。

Well-Being

— ウェルビーイング —



和

100歳まで自立する

多様で豊かな住環境の実現を。

それが「ウェルビーイングシティ構想」。

和を以て貴しとなす

これは一般的に「皆で仲良く争わな
いようにしなさい」という意味で使
われることが多い言葉です。意見の
対立を深めるようなことを行わず、
和（やわらぐ）の心で「お互いが納得
いくまで議論をしなさい」というの
が正しい意味であると私たちは捉え
ています。

まちづくりにおいても若者から高
齢者までの全世代が「和」の心を持
ち、調和のとれた多様で豊かな住環
境を整えることが大切です。言い換
えるならそれは、生まれた時から最
期を迎えるまで、どのような年齢・健
康状態の方であっても一人ひとりを
「自立した対象」と位置付け、100
歳まで自立できる持続的な暮らしを
創り上げてゆくこと。それこそが、私
たちの考える『ウェルビーイングシ
ティ構想』です。

住

単なる箱づくりに留まらない 全世代型のまちづくりへ。

私たち日本人にとって「住まい」とは、住む場所としての意味だけでなく、個人や家族を形成する上で大きな影響を及ぼすアイデンティティの基のようなものでもあります。また、かつては住宅の提供のみに重きが置かれていましたが、多様化するライフスタイルが求められ

る現代において、それだけでは事足りないのも事実です。例えば少子高齢化社会を踏まえ、子ども世代が介護に翻弄されることなく街全体でサポートできる体制を確立したり、慣れ親しんだ住まいで看取りまでできる生涯を叶えたり。

私たちは単なる箱づくりに



留まらず、2世代・3世代が共に暮らせる住環境や多彩なソフト・サービスの提供など、あらゆる年代を支え続ける全世代型のまちづくりに取り組みます。

食

地産地消を大切にしたい 楽しく健康的な食事の在り方を。

食事というのは心身の健康の資本であり、人が生きてゆく上で重要な意味を持つ大切な活動です。また「健康を司る」といった観点で食事を捉えた際、もちろん食材の吟味も大切にしなければなりません。鮮度や栄養価が高く、そして何よりも美味しい

食事を摂るためにも、私たちは地産地消を積極的に採用します。

地元の味を守り、地域との繋がりを生み出す社会性のある食事。そして、もったいないを出さない食事を実現すること。気の合う仲間や家族と食卓を囲みながら、地球や大地の恵み



に感謝し、地域との繋がりを感じ、さらには生産者の顔が見える食材を用いた安心感に満たされた「楽しく健康的な食事」の在り方を追求したいと考えています。

働

社会性を維持する ワークの創出を。

突然ですが「ジョブ」と「ワーク」の違いはご存知でしょうか？どちらも日本では「仕事」や「働く」といった意味で使われることが多いのですが、実はジョブは賃金を目的とした仕事を指し、ワークは賃金を目的としない仕事を指します。ジョブをお持ちの方の多くは壮年期を迎えてジョブから退き、第

2・第3の人生へと歩みを進めて行きます。長くジョブをお持ちであった方は定年を機に喪失感を覚えてしまうことが知られていますが、これを「役割の喪失」と言います。

健康寿命が延伸された現代では、定年後も働き続けたいと考える人は数多く存在します。それは賃金を目的とするだけ



でなく、社会とのつながりを含む“やりがい”を感じられる環境が必要なのです。そこで私たちは、定年後も対価を得ながら働くことで五感を刺激し健康を保ち続ける暮らしの提供を大切にしたいと考えています。

学

第2・第3の人生にこそ 新たな学びを。

医学の発展と国民皆保険という恵まれた環境にある日本人は、終戦後の70年超で寿命が約30年延びました。それは、もう一度生きる時間を獲得した事に他なりません。第2・第3の人生を歩むと共に、学ぶチャンスをも得ることができたのです。また全世代を通じて誰し

も取り組めるのが「学び」の魅力です。若かりし頃は、なりたい将来のために人生設計の一環として学びに取り組みがちですが、社会人を経験したことで得た知見を基に、心から純粋に学びたいことに取り組むのも豊かな暮らしを送る大切なエポックであると考えます。



新たな学びに向き合うことで、この先の未来で見る景色が変わってくるかもしれません。学びの喜びを今一度噛み締めて、年齢を問わず好奇心のまま学びの先にある新たな自分を想像してみたいかがでしよう。

遊

遊びから得る 学びや知恵も大切に。

「遊ぶ」という非生産的な活動に取り組む生物は、地球上には私たち人間以外に存在しないと言われています。それは、かつてオランダの歴史家ホイジンガが人間のことをホモ・サピエンス（知恵の人）ではなく、ホモ・ルーデンス（遊ぶ人）と称したほどです。

りません。遊ぶことそのものが目的となるのです。時を忘れるほど真剣に遊んでいる時間ほど充実したものはなく、遊びは自由の象徴でもあります。また個人の嗜好や状況によって参加するのもしないのも、やめるのも継続するのも自由に選択できるのが遊びの大きな魅力です。

遊びとは、身体的な必要性から課されるものではなく、ましてや道徳的義務によって行われるものでもありません。ただし、遊びだからこそ得られる満足・楽しみがあり、何よりも遊びから得られる学びや知恵も事実として数多く存在します。あなたは最近、「真面目」に遊んでいますか？



健

健康寿命は 生きがいから。

一般的に健康というと「病気ではない」や「弱ってはいない」などというイメージが強いかもしれませんが、健康状態というのは身体的・精神的・社会的に「完全に良好な状態」であると定義されています。これはWHOの定める健康の定義を「コンプリート＝完全」と訳しているために、そのような解釈

をされることが多いのです。例えば、人間関係などの心理社会的なストレスは疾病を生み出し、疾病は人間関係に影響を及ぼします。また逆に、人々との触れ合いは心の健康を促すとも言われています。いつまでも若々しい人ほど、多世代交流を育み、適度な運動を行い、社会との繋がりが豊かで、バラ



ンスの取れた生活を過ごしているものです。

単に病気ではない、弱っていないというのではなく、全世代が年齢の垣根を超えて結び付き、心身共に刺激を与え合い「身体的・精神的・社会的に調和のとれた状態」こそが、本当の意味での良好な健康状態であると私たちは考えています。

看

看守りに“かかりつけ” という発想を。

「看」という言葉には“手を当てて目で見える”という意味があり、「護」という言葉には守るだけではなく、悪いことや状態を“未然に防ぐ”という意味もあります。一般的に「看護」というと治療や療養が必要な際にお世話になるイメージが強いと思いますが、実はそれだけでは不十分なこ

とが多くあります。日々の正常な状態を把握している看護師がいるからこそ、状態の変化や異常に逸早く気が付くことができ、『かかりつけ看護』を持つことも安心して生活を維持するための大きなポイントになります。

私たちが考える『ウェルビーイングシティ構想』は、

専門クリニックから総合病院を含む医療体制をまちづくりとして整えるのはもちろん、慣れ親しんだ住まいで安心して看取りまでできるよう、一人ひとりに寄り添った「看護」の充実に真摯に取り組めます。



EPILOGUE

いつまでも心身ともに豊かで健康的で
何よりも自分らしい毎日をお過ごしいただくために。

私たちがこれまでに掲げてきた
『ウェルビーイングシティ構想』は、
住まいづくりだけに留まらない
“複合的なまちづくり”として進化を遂げます。

“ウェルビーイング”とは、
身体的・精神的・社会的
に調和のとれた状態であることを意味します。

働き方やライフスタイル、大切な人との繋がりなど、
多様化する価値観を共有し、一人ひとりがそれらを実現するために
地方創生、環境資源の活用、教育機関・医療機関との連携をはじめ、
地域社会や様々な専門家の叡智を集結させながら
未来に誇れる“暮らしの在り方”をご提案します。

今までになかったまちづくりを。
そして、かつてない挑戦を。

年齢の垣根を超えて前向きな人生を送り続けるために
100歳まで自立できる住環境を整えること。
それこそが『ウェルビーイングシティ構想』に込めた理念です。